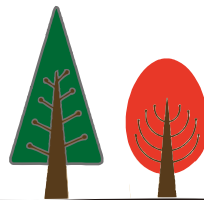




【9・10・11月の主催行事】

秋のイベント情報



牛久自然観察の森
季刊情報誌



森のしんぶん

秋号 No276

秋の昆虫採集 家族昆虫教室 9/8(土)

「秋の昆虫さがし」

9月は大きく成長したバッタやカマキリを観察する一番良い季節です、バッタ以外にもコオロギなどの鳴く虫達の音色にも注目してみましょう。

開催時間：午前9時30分～10時30分

対象：小学生とその家族

参加費：1家族500円

定員：10組

集合場所：ネイチャーセンター前

申し込み：電話にて事前予約

備考：雨天時中止



幼児昆虫教室 11/3(祝)

冬越しの準備をしている昆虫やカマキリの卵等を探しにいきます。上手く隠れて冬越しをする昆虫を見つけてみよう！

開催時間：午前9時30分～10時30分

対象：幼児（3歳～6歳の未就学児）

とその保護者

参加費：幼児1人につき300円

（保護者の方は無料）

定員：10組

集合場所：ネイチャーセンター前

申し込み：電話にて事前予約

備考：雨天時中止



クワガタ飼育に挑戦！！

クワガタ飼育教室 11/17(土)

初めての方でも飼育しやすいクワガタを幼虫から成虫まで育てます。朽木から幼虫を見つけたり、産みつけられた痕跡等を観察します。長期飼育を通じて、クワガタの生態を学びましょう。

時間：①午前9時30分～11時 ②午後2時～3時30分

対象：クワガタを幼虫から飼育して

みたい4歳以上の幼児、小学生とその保護者

参加費：1組2、500円

（幼虫2匹と、成虫になるまでに必要な簡易容器（菌糸ボトル）を含む）

定員：各回8組 申し込み：電話にて事前予約

0歳児対象

赤ちゃん木育広場 10/22(月)

はじめて木育ひろばを体験される方のための木育ひろばのレクチャーと笑顔の記念撮影会。月齢にあった木のおもちゃの紹介もします。

開催時間：午前10時～11時

対象：6か月以上1歳未満の赤ちゃんとその保護者

参加費：大人1人500円 定員：8組

集合場所：ネイチャーセンター内木育ひろば「うっしっし」

申し込み：電話にて事前予約 備考：雨天決行

講師：SoundGiftShop 音賜 三浦ちよ子さん

絵本の読み聞かせ会

森でランチ

9/14(金)「バッタとこんにちは」

10/12(金)「どんぐりで遊ぼう」

11/9(金)「落ち葉でじゃんけんポン」

森で出会う「生きもの」をわらべ歌や手遊び、絵本の読み聞かせとともに紹介しています。

時間：正午～午後1時

対象：乳児～幼児とその保護者

参加費：無料（予約不要）

集合場所：バッタの原、日時計側ドングリの木の下

持ち物：お弁当、飲み物 申込み：予約不要・当日受付

備考：雨天時、強風時は中止。



大人の方対象

木製ハンドメイド「トラック作り教室」 11/11(日)

子どもに贈るための「木のおもちゃ」作り教室を開催いたします。ウッドバーニングペンで装飾、タイヤ、ヘッドライト、ナンバープレートを取り付け、オリジナルトラックを作ります。

開催時間：1回目 午前10時～12時 2回目 午後1時～3時

対象：0～2歳児の保護者で贈り物を作りたい方

参加費：1つ6,000円

定員：各回8名

集合場所：ネイチャーセンター

申し込み：電話にて事前予約

講師：つみ木堂 松本将利さん

（群馬県邑楽郡）



つみ木作家に教えてもらいながら作成するので、木工クラフトが初めての方にもオススメです。

野鳥観察会

バードウォッチング

9/16(日) 10/21(日) 11/18(日)

園内と園外の田んぼと小野川沿いの約3キロの多様なコースを2時間かけてゆっくりと歩きます。

時間：午前9時～11時

対象：一般

参加費：無料

備考：双眼鏡の無料貸出有り。

雨天、強風時は中止。

協力：牛久とりの会



イベント情報は公式HPでもご覧いただけます。

申し込み & お問い合わせ

029-874-6600

休園日 9月：3日(月)、10日(月)、18日(火)、19日(水)、25日(火)、26日(水)

10月：1日(月)、9日(火)、10日(水)、15日(月)、22日(月)、29日(月)

11月：5日(月)、6日(火)、12日(月)、19日(月)、26日(月)、27日(火)

開園時間 9:00～16:45 (11月～1月は16:00迄)

生き物 カレンダー

9月、10月、11月
に見られる代表的な
生き物を月ごとに昆
虫、植物、野鳥の
順に並べています。



ナツアカネ (9月)
夏は雑木林など涼しい所に移
動する。成熟したトンボは赤
くなり、田んぼ等に卵を産む。



オミナエシ (9月)
秋の七草の一つ。園内「タマ
ムシの林」で見られる。



キビタキ (9月)
東南アジアなどに帰る途中に立
ち寄る。コブナの流れのイヌザ
ンショウの実を食べにくる。



クツワムシ (10月)
鳴く虫の最大種の1つ。「ガ
チャガチャ」と夜に鳴き、屋
は草原の中で見つかる。



ツクバトリカブト (10月)
毒草として有名。花にも毒はあ
るが、見た目はとても美しい。
「タマムシの林」で見られる。



ツツドリ (10月)
南の国に帰る途中に立ち寄
る。毛虫等が好きで、サクラ
の木にいることがある。



コカマキリ (11月)
ピークは過ぎているが、見つ
かる事がある。寒さに耐え懸
命に生きている姿は美しい。



ガマズミ (11月)
「コジュケイの林」で目立つ。
赤い実は冬になった時の野鳥
の大事な食料になる。



ジョウビタキ (11月)
冬鳥として飛来する。冬告げ
鳥ともいわれる。高い所に止
まり、縄張り宣言をする。

木育担当の「木になる」おもちゃ

汽車のレールテーブル

「レール・テーブル」とは電車のおもちゃを走らせる線路用の溝が掘
られているテーブルのことです。木育ひろばの顔ともなっている「汽
車のレール・テーブル」は、昔に牛久シャトーで出来たワインを牛久
駅まで出荷するために、トロッコのレールがひかれ、汽車が走ってい
ました。その歴史から観察の森のスタッフが当時走っていた汽車を参
考にデザインし、青森県弘前市の(株)わらはんどに製作していただき
ました。後ろにあるドールハウスが汽車につながる客車のように見え
ます。

汽車、電車、乗り物が大好きな子どもたちは、ずーっとこの場所で過
ごしていて飽きないようです。子どもが楽しく遊んでいる最中に動い
てはズレてしまったレールをつなぎ直すこともなく、ストレスフリー

で遊べる場所がおすすめポイントです。そしておもちゃ各社の汽
車、電車にも対応できるレール幅で作られています。外側のレール
では立ったまま歩きながら電車を動かし、内側に入ると秘密基地の
ような居心地の良さがあります。保護者の方がよく窓や明り取りの
穴から覗いてうれしそうに声をかけている姿が見られ、記念撮影に
もぴったりのスポットです。



汽車外観



汽車内側

生き物ぴっくあつぶ

バッタの原の生き物紹介

～秋はトノサマバッタバッタの巻～

この野原の名前になっているバッタの季
節の到来です。

バッタ達は、5月の中旬に卵から孵り、
多い個体で6回～7回脱皮を繰り返して、
天敵から体を隠しながら大きな成虫にな
ります。

トノサマバッタはバッタの中でも一番大
きな種類です(メスの方が体が大きく7
cm・オスは5cm)。50メートルも飛ん
で行く個体もいます。その時、目をこら
して見てほしいポイントは、翅。

広げた翅全体が白だったらトノサマバッ
タ。翅に黒いスジが見えたらそのバッタ
はクルマバッタです。



トノサマバッタ

秋はバッタたちの結婚のシーズン。仲間
を探すために草の中から出てきます。
この季節のもう一つの見どころは、交尾
を終えた雌が産卵のために、お腹の節を
土の中に入れて卵を産み付ける事です。
野原の前の園路で、お尻を土に差し込ん
でいるメスに出会えたら、そっと遠回り
して遠くから観察してみてください。



ショウリョウバッタの
産卵シーン

バッタは食草であるエノコログサやス
スキが茂っている野原だけではなく、砂地
や地面が見える場所がないと卵を産み付
けることができません。野原と園路があ
る、このバッタの原がバッタにとって最
適な環境なのです。

そんなバッタの原で、バッタの成長の時
期と草刈のタイミングがうまく合わな
かった為か、トノサマバッタの姿が少な
くなった年がありました。

現在は野原の草刈りを部分的に行い、手
刈りや草刈り機を遅くして対応し
ています。

トノサマバッタは、増えているでしょ
うか。野原を歩いて確かめてみてね。

(文 / 自然解説員 金久)